

Visual R Platform バージョン 1.1 の変更点

2014年9月12日

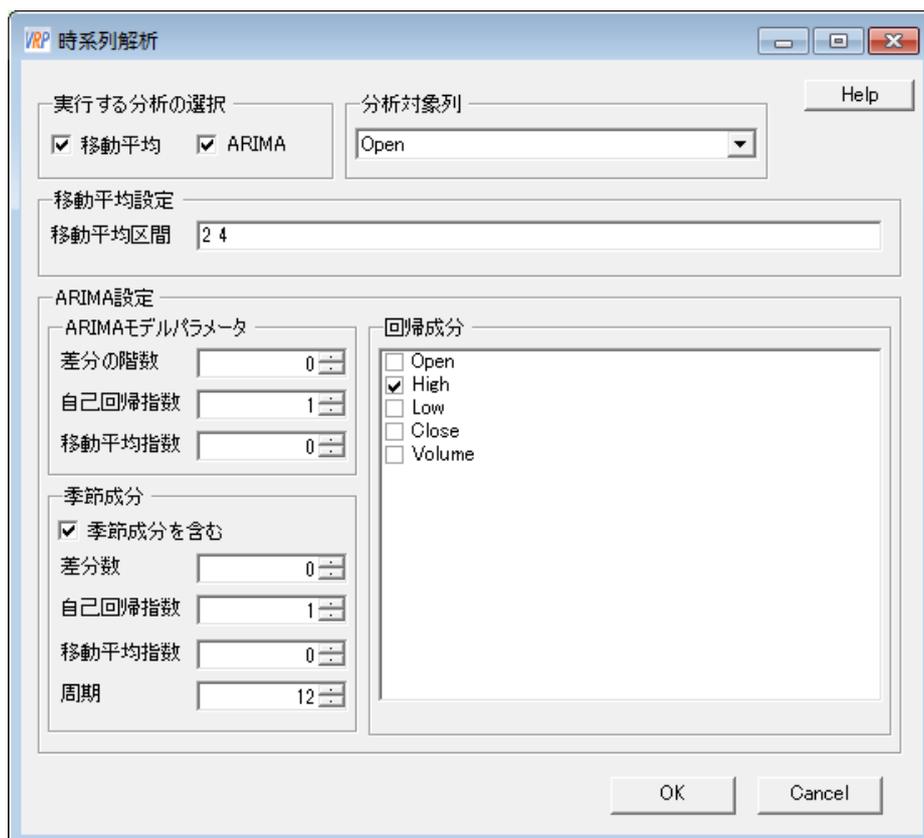
株式会社 NTT データ 数理システム

新規アイコンの追加

新たな処理アイコンが3つ追加されました。

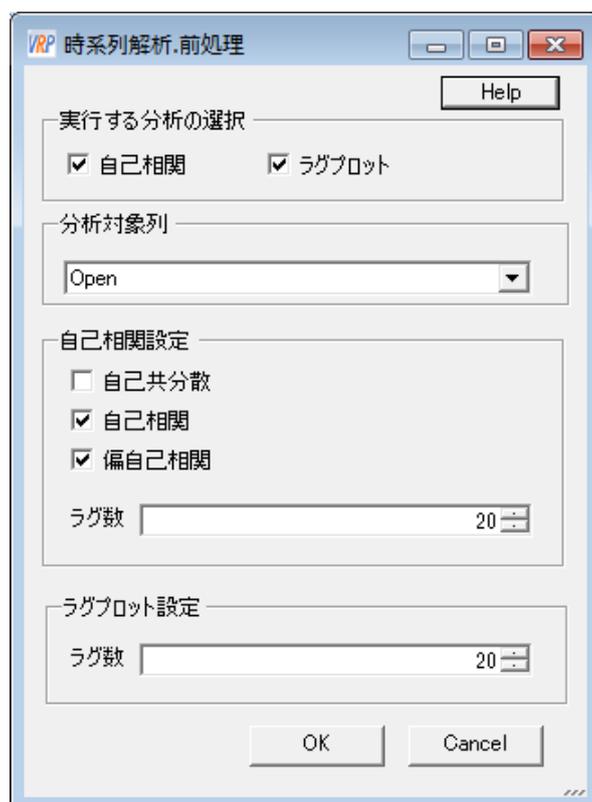
時系列分析

時系列データについてフィッティングまたは予測・検証を行うアイコンです。手法としては、移動平均または ARIMA モデルを選択することができます。



時系列分析前処理

時系列データの性質、特に系列相関をもつかどうかを調べるためのアイコンです。自己相関の計算、ラグプロットを行うことができます。



クリーニング

データに含まれる欠損値や外れ値を検出し、代替値を設定するためのアイコンです。

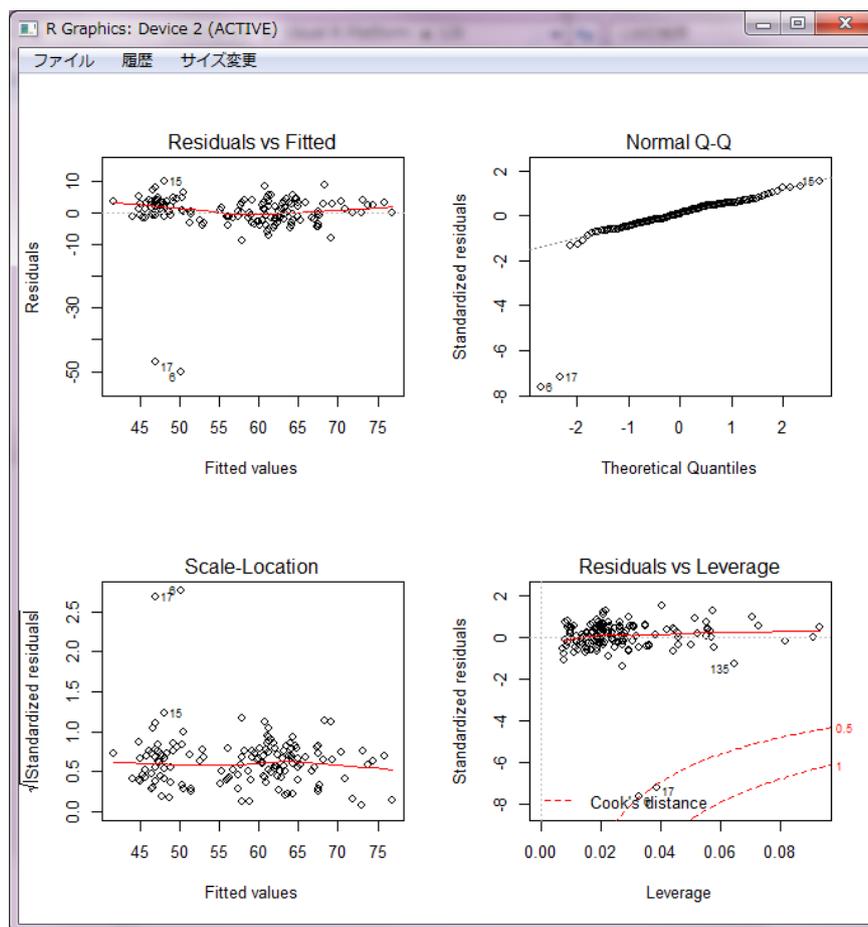


シームレス化 (VRP - VAP 変換アイコンの撤廃)

Visual R Platform バージョン 1.0 では、VRP アイコンと VAP アイコンは直接接続できず、データのやり取りを行う際には、データ変換アイコンを通す必要がありました。バージョン 1.1 では、この変換が自動で行われるようになりました。その結果、データの種類を気にすることなく、どちらのアイコンも相互に接続できるようになりました。

グラフ表示機能

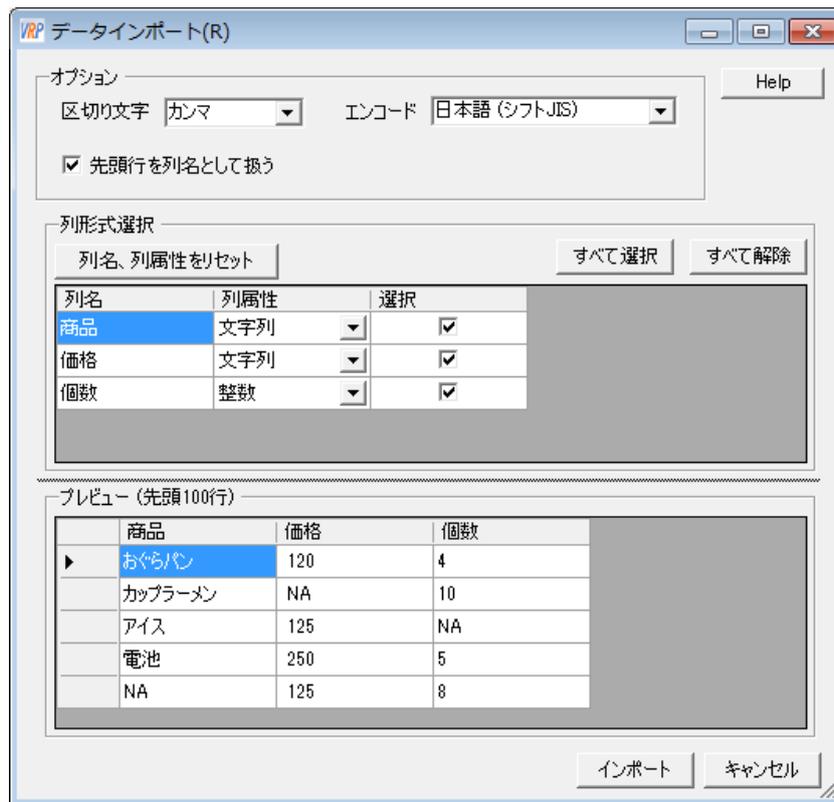
決定木、線形回帰、主成分分析などのいくつかの分析アイコンについて、分析結果をグラフ表示する機能が追加されました。アイコンの右クリックメニューで「オブジェクトビュー」をクリックするだけで、手軽に解析結果をグラフで見ることができます。



結果のグラフ表示例(線形回帰)

CSV ファイルインポート機能の拡張

CSV ファイルのインポート機能が拡張されました。プレビュー機能付きのインターフェースが追加され、インポートする前にデータの確認を行いながら、インタラクティブに列の選択、型の指定、エンコーディングの指定等ができるようになりました。



CSV インポートダイアログ

VAP Web Server への対応

VAP Web Server に対応いたしました。これにより Visual R Platform で作成したプロジェクトを手軽に Web 上に公開できるようになりました。

R パッケージインストール機能

Visual R Platform で使用する R のパッケージを、自動でインストールする機能が追加されました。